

## 令和5年度 釜石・大槌定住自立圏共生ビジョン懇談会結果

- 1 日 時 令和6年2月14日（水） 13：00 ～ 14：30
- 2 場 所 釜石情報交流センター多目的集会室（釜石PIT）
- 3 出席者 委 員：10名中7名出席  
釜石市：市長、議長、副市長、総務企画部長  
※欠席：教育長  
（オブザーバー）市民生活部長、保健福祉部長、産業振興部長、文化スポーツ部長、危機管理監、教育部長  
大槌町：町長、議長、副町長、教育長、企画財政課長  
（オブザーバー）連携事業担当課長  
釜石大槌地区行政事務組合：事務局長  
岩手県沿岸広域振興局：副局長

### 4 結 果

- ・釜石・大槌定住自立圏共生ビジョン懇談会について説明後、任期満了に伴う再任及び新任の委員を代表して、東野委員に小野市長から委嘱状の交付が行われた。
- ・出席者紹介の上、釜石市長及び大槌町長のあいさつが行われた。
- ・小泉会長が議事進行を務め、事務局から釜石・大槌定住自立圏共生ビジョンの具体的取組の成果や達成状況及び第2期釜石・大槌定住自立圏共生ビジョンに関する進捗について説明を行い、出席者から意見を頂戴した。

#### ○市長あいさつ

本日はご多用のところ、定住自立圏共生ビジョン懇談会に、本日は出席をいただきまして、感謝を心から申し上げます。

釜石・大槌定住自立圏につきましては、平成30年の2月の26日に、釜石が中心市宣言を行いまして、平成30年の3月20日に大槌町との間で定住自立圏形成協定を締結した上で、釜石大槌定住自立圏共生ビジョン策定いたしました。

また、昨年度、所要の見直しを行った上で、令和5年度から令和9年度までを期間とする第二期釜石・大槌定住自立圏共生ビジョンを策定したところであります。

これまでの具体的な取り組みといたしましては、医療分野の取り組みといたしまして、圏域内の、休日夜間の救急医療体制の維持と切れ目のない医療介護の提供体制の構築に向け、連携して必要な支援を行ったほか、教育分野の取り組みといたしまして、圏域の住民がより健康で文化的な生活を営むために、景気にある体育施設、そして文化施設の利用料金を圏域住民枠に統一をいたしまして、综合利用の促進を図って参りました。

これらの取り組みのほかにも、福祉、産業振興、防災などの各分野におきまして、住民の利便性向上に向

け、圏域として必要な生活機能等強化に向けた取り組みを今まで進めて参りました。

また今年度からスタートいたしました第二期ビジョンにおきましては、これまで取り組んできた事業に加え、教育分野において、東京大学の気象海洋研究所、岩手大学の三陸水産研究センター等、県域内の高等教育機関と連携を図りながら、あらゆる人が外部ステージに応じて学べる環境の構築を構築を図る他、防災分野におきまして、防災講座等の共同開催、そして防災士の養成研修講座等の合同での実施などを連携して実施することで、圏域内の住民の安全と安心を確保したいと考えております。

本日のビジョンの懇談会は、定住自立圏共生ビジョンの推進に当たり、民間や地域の関係者の意見を広く反映させる場として開催するものであります。

両地域の連携事業等について、忌憚のないご意見をいただきたいとともに、今後の連携についても、ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、本日の挨拶とさせていただきます。

今日はどうかよろしくお願いいたします。

#### ○町長あいさつ

今日釜石市は一番県内では高い、17度ということで、すでに大船渡では桜が咲いたというような話を聞いております。

なかなか暖冬でということですが、その中ではやはりわかめの発育や春から夏にかけての、農作物の獲れ具合はどうなるのかということに心配することがありますけれども、やはり地球温暖化が進んでいると思っております。

しっかりと温暖化については考えながら、作業含めて様々考える必要あるだろうと強く思っております。本日はお忙しいところ、釜石・大槌定住自立圏ビジョン懇談会にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

皆様には、日頃から釜石・大槌地域の振興にご尽力いただいておりますことに、この場をお借りしまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、人口減少、少子高齢化の問題は、釜石、大槌地域のみならず、全国的な課題、問題となっております。地方の課題としては、いかにして都市部への人口流出を食い止めるかということが挙げられるところであります。本圏域においては、定住自立圏共生ビジョンに基づいた事業を、医療、福祉、産業振興など多様な分野で連携をし、定住の促進に取り組んでおります。ビジョンにつきましては、昨年3月31日に第1期ビジョンの計画期間が終了し、今年度より、第二期ビジョンがスタートしております。この懇談会は、圏域が抱える課題解決に向け、お互いに意見を述べるためにあります。そして、圏域のまとまりを維持しつつ、安全で安心なまちを作り、県域の活性化を図っていくことが、この場の役割だと強く思っております。

本日は、第1期の取り組みの成果や第二期の取り組みの進捗が議題となっております。委員の皆様には、幅広い分野、視点から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。簡単ではありますが、私の挨拶をさせていただきます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### ○会長あいさつ

それでは、議長の席を私が務めさせていただきます。

今、市長と町長の方からお話あった通り、両方で協力していただきたいと思っております。少子化それから人口減少の両方がとめどなく流れております。2050年の問題、もう推計が出ました。ガッカリするような推定でした

が、私たちはある程度そうならないように努力していかなければなりません。

地域が豊かで、協調性がありながら、ここにいてもいいなと思ってもらえるようなところを目指していかないと駄目だと思っています。今まで通りでやっていると、今回たまたまコロナとかインフルエンザというのがありまして、コロナではもうみんな疲弊しております、医療の問題だけでなく経済の疲弊が目立つような気がしています。今日も釜石の中を車で来ましたが、住宅の工事も何もしていませんでした。何か変化がないと、次に進めないような感じがします。

今、空き家対策など様々なことたくさん実施していますが、そういったことも含めて、みんなが前を向けるような、釜石と大槌でコンタクトをしながら、仲良くして前に進んでいくということは少なくともやらなくてはいけないと思っています。

釜石も今度の小学校の入学は100人です。一時9万6000人もあった都市がここまで減るといって自体が大変だと感じます。これは皆さんの責任では全然ないですが、みんなで頑張っても、何かそこには大きな壁が常にあります。しかしそこを打破しない限り、なくなるということですから、みんなで頑張っていかなければと思っています。本日はよろしく願いいたします。

○定住自立圏構想について 釜石市総務企画部 中村部長より説明

質疑応答なし

○「釜石・大槌定住自立圏共生ビジョン」の具体的取組に関する成果及び達成状況について 釜石市総務企画部 中村部長より説明

質疑応答なし

○コメント

(小泉会長)

様々なことを実施しているが、コロナが流行してからもう少しで5年になりますが、皆さんの社会的な動きが制限され、ワールドカップ終了後からは、なかなか病気のコロナ禍感染症とかインフルエンザの感染症、その他子供たちの、感染が多く、動きが本当に制限され、やりたくてもやれなかったということもいっぱいあります。健康、医療安全に関しては、あまり喜ばしいことではないですが、救急車の出動回数が増えているというような状況です。正月明けからコロナの感染者がまた増えてきました。感染力は変わってないが、菌力が弱くなっているため、亡くなる方は減っています。感染する人は結構多くなるので、感染すると少なくとも1週間は自宅待機してはダメです。

今回のビジョンはコロナ感染者が少なくなったあたりに向けての考え方のなると思うので、これからの面を重点的に考えていかなければならないと思います。

○第2期釜石・大槌定住自立圏共生ビジョン」の具体的取組に関する進捗について 釜石市総務企画部 中村部長より説明

質疑応答なし

○コメント

(小泉会長)

人口減少がかなり進んでいる印象があります。2050年は東京だけが人口をイーブンで維持し、それ以外は全て減ってしまうというのがわかっています。一番もめそうなところは、全国の方の出生する年代の女性が

東京に行って東京で結婚したりと、そういう流れになってしまっていることが問題かなと思っています。東京だけにすべてが集中していると感じます。その辺の施策は政府の方で何かありそうなのでいいですが、地方で私たちが今すべきことは何か、活力を生み出すことを考えていかなければならないと思います。少なくとも、地域住民が安心、安全に暮らすことができるまちを作っていかなければならないと思います。

(松本副局長)

昨年から赴任してきました。内陸と比べると人口減少が早いと感じます。有配偶率と女性の人口減少が大きいです。高校を出てから首都圏のほうに行ってしまう方が多いのだと思います。振興局でも結婚支援や小中高生に対する管内事業所の紹介など行っていますが、なかなか一気に進まないと感じています。できることから手を付けている状況です。

(小泉会長)

スポーツについて、ラグビーでもそうですが、いい指導者を育てて花園に行きましようという発想はいいが、子どもたちが鍛える場所がないということがあります。そうするとせっかくラグビーを釜石で始めても、内陸の高校に行ってしまう。野球でもバスケでも同じことが言えます。みんなで知恵を出し合っていないと、人口減少からの脱却は難しいと思います。それから地域包括ケアといいます。今年70代の方がたくさん亡くなっています。しかし、亡くなってから1週間或いは1カ月と知らない方が多い。日本中そうなのですが、繋がりがなくなってきています。なのでこういった、定住自立圏のような繋がりというのは非常に重要なポイントだと思います。

(小笠原委員)

コロナの影響でずっと動けていませんでしたが、今年度から少しずつ活動を再開していきたいと思っています。地域の方を呼ぶのも重要だと思っています。

(蓮見委員)

市内で健康体操を実施しているが、70代以上の参加が圧倒的に多いです。参加者はコミュニケーションが楽しいということで来ていただいています。高齢者だけではなく、障がいがある方の参加を含めた運動のコミュニケーションがないと感じます。市が主導となって皆さんを誘導してほしいです。

また、子どもたち、40代～50代、高齢者、そういった3つの輪ができるようなコミュニケーションを図るイベントをやってほしいと思っています。誰かがトップに立って人材育成のようなことをやっていかなくてはなりません。私もやってはいますが、一定の人ではなく、全体を踏まえていかなくてはならないと思います。

(平野町長)

人口減少と少子高齢化は大きく予想を上回っていると思います。やはり全体的に厳しい状況が続いており、物価高騰も含めて対応をしなければいけないと思っています。広域では釜石市との連携は必須だと思っています。地域経済の活性化しないと、住んでいただくということにもならないと思います。岩手県内においても4号線沿いは自動車道も含めて大きく展開を図っておりますので、格差が広がりつつあるのではないかなと思います。それで憂いていても仕方ないので、連携を取ってどうするか、人口減少に歯止めをどうかけ

ていくか定住自立圏構想ビジョンの最も大事なところなので、諦めずに釜石市と連携を取りながら進めてまいりたいと思います。

(小野市長)

去年の11月に釜石市長に就任したのですが、11月末の人口が、釜石市政始まって以来の3万人を切ったと、2万9983人というショッキングな数字が出ました。部長の方からもあり、小泉先生の方からもありました通り、人口の減少のスピードっていうのは早くなってるのだろうと思っています。

個別社会保障人口問題研究所の数値によりますと、釜石が3万人切るというのは、推計よりも5年早く来ました。やはり推計よりも早いスピードで先ほどお話があったように、人口減少が進んでるだろうなというふうに思いますし、今から10年後の釜石の人口が2万3000人だと言われています。今から、本当に7000人減っているというのが10年後の人口の推計でありまして、年間700人ほどのペースで、人口減少が進んでいくというこれまたショッキングな数値だと思います。震災からこの13年間は復旧で手一杯だったという状況だったのだろうと思いますけども、復旧事業の裏でやはり人口減少に対しての、市の施策、或いは大槌町もそうだったのだろうと思いますけども、それに対応するだけで本当に手一杯だったのだろうと思います。例えば人口が少なくなったということに対して、学校統合もその通りなんだろうと思います。おそらくその病院或いは医療圏の統合というのもその流れの中で来ておりますし、或いはその公共交通もその通りなんだろうと思います。

あとは、おそらくもうすぐ出てくるのが、JR釜石線、三陸鉄道の値上げであったり、そういったような人口減少に対してその自治体がどう対応するのかということだけで、その行政の政策が終わってしまうといったような状況になってくるということが容易に想像できる状況だと思います。

その中で今、もうすでに始まっております行政事務組合と環境組合の話ですね、消防と、救急とごみ処理なんか、もうこれは大槌と釜石が広域でやらなきゃどうしようもないような状況まできていると思います。おそらくこの流れというのはまだまだ続くと思ひまして、小泉会長が仰ったように、医療ももう釜石と大槌は一緒にやらないともう何ともならない状況まできています。介護もその通りでありますし、保健福祉も観光もその通りなのだろうと思っております。対応するだけじゃなくて、釜石と大槌が組んだことによって攻めの状況にできればいいなというふうに考えておりました。おそらくDXにしても、人口減少に対する対応であって、まだ広域にはなっていないだろうと思っております。様々な知恵があると思いますけれども、やはり皆さんの協力、様々な意見を、忌憚のない意見をお伺いしながら、できるだけその人口減少に対応するだけじゃなくて、攻めのその状況を作っていきたいと思ひます。また、今日がそのきっかけになればいいなと思っておりますので、今後ともどうかよろしくお願ひしたいと思ひます。